

A棟

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に掲示し、毎日利用者の皆さんと職員で唱和している。新たに理念をつくり、職員全員で共有し意識付け 実践している。	庵の五つの理念を掲げ、利用者・職員が全員で唱和している。笑顔が一番と関わりを重視し、茶話会・食事は一緒にしており、寄り添い思いを引き出し利用者の笑顔につなげるよう実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にお願ひし、踊り、歌、語りべなど披露していただく機会を設けたり、お寺の団子拾いに出かけたり 2日に1度 近くのスーパーに食材の買い出しに出かけ 地域の方々との関わりをもっている。	近くのスーパーに出かけた際、失敗があったが店員さんが理解して見守って下さり、地域の方に支えてもらっていると実感した場面があった。また、教会の子供たちが歌や寸劇の披露や個人宅のバラ園に出かけるなど積極的に交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生、研修生の受け入れを行っている。庵周辺のゴミ拾いも散歩をかね実践している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告、活動状況、評価の取り組み状況など報告し 意見をもらうようにしている。	市の担当者・包括・町内会長・家族代表・利用者代表の参加で定期的開催している。状況報告や意見交換など行っており、夜間の安全面について意見があり、全職員で話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、グループホーム事業所連絡会に参加していただき 何かと相談に乗っていただいている。	年2回、市主催のグループホーム事業所連絡会に参加している。テーマを決めて話し合ったり、市からの連絡事項を確認し、情報共有するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、ミーティングを設け マニュアルを作成し、周知徹底した。	勉強会は年1回必ず行っている。その他に、朝の申し送り時に疑問に感じることなど話し合い、特に言葉の抑制について周知徹底し、安全確保しつつ行動を抑制しないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり 入浴時、トイレ誘導時などに さりげなく全身観察したり 体調、行動、言動の異変の早期発見など 日々の対応に注意を払っている。	研修に参加したり、勉強会を開催するなど、全職員が注意を払い虐待防止に努めている。職員のメンタルは職員同士がフォローしあい、働きやすい環境を作りストレス軽減を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会主催の成年後見制度の研修に参加し 後日復命し勉強会を開き 他職員も理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款、運営規定に明記されており、ホーム担当のケースワーカーが説明を行っている。入居時にもホームスタッフが説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族代表者は運営推進会議に出席し 意見を述べやすいよう配慮している。家族参加の食事会、茶話会を設け 意見要望の表出の機会を設けて反映させている。	家族代表が運営推進会議に参加し、積極的に意見をあげている。夜間停電時の安全面について意見があり、それも基に職員で話し合い、暗闇でも利用者が分かるように一人ずつ光るメダルを作成したり、非常口が分かるような工夫をした例がある。もっと、たくさんの家族から意見を聞きたいと考えている。	気軽に意見を出してもらえそうな雰囲気づくりや家族参加行事の際に、アンケートを実施し、もっと多くの意見を引き出し、家族と一緒に利用者を支えていけることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常 日頃よりコミュニケーションを図り 意見を聴く体制をとっている。大事な決定事項に関しては、全体ミーティングを開いている。	朝の申し送り時に意見を出し、カンファレンスしている。それ以外でも、何かあれば管理者に相談できる関係を構築している。感染防止の食器消毒について意見があり改善した例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回 人事考課を行い 職員が向上心をもって勤務できるように働きかけている。職員の資格習得に向けた支援を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会はある 業務に支障が無い限り参加できる体制になっている。出席者は報告が義務付けられており 復命をしている。庵独自の勉強会も1回/月行っている。母体病院が行う定例勉強会 介護主体の定例勉強会に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所連絡会を立ち上げてもらい 当ホームを会場にし 意見交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケースワーカーが初期窓口になっており 相談を受けている。ホームの見学なども試みてもらい その際 話を聴くなどし信頼関係に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケースワーカーが担当し 相談を受けている。ホームの見学なども試みてもらい その際 家族からの話を聴くなどし 信頼関係に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケースワーカーにより 必要な対応がなされている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員が共有しており 利用者の方から学ぶ姿勢を大切にしている。利用者の得意分野などを把握し 日常生活の中で話題を提供して 教えてもらう場面作りを心掛けている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などでこまめに近況報告など行っている。不穏時に家族が一時的に一緒に時間を過ごしたり 気分転換にドライブ 散歩 食事に出かけるなどして共に協力し合える関係を築いている。	年 2回、笹団子づくりや食事会を開催し、家族が集まる機会を設けている。利用者の思いを伝えたり、外泊・外出の協力・受診同行してもらい状況を理解してもらうなど取り組み、本人を支えていく関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで馴染みの場所 懐かし場所などに 出掛ける機会を設けている。友人や親戚の面会もあり、昔から利用している美容院に家族と出掛ける利用者もあり 生活習慣を尊重している。	馴染みの美容院に出かけたり、友人から手紙が届くこともある。また、知人・親戚なども訪ねてくるが多く、ゆっくり楽しく過ごしてもらえるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係を全ての職員が把握し共有しており 利用者同志の会話が持てる様 話し掛けや見守りを行っている。食堂での席も利用者同志の関係を配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し 様態が安定したら 職員や馴染みの利用者と一緒に見舞いに行っている。家族からの問い合わせがあった時には いつでも応じている。退居された家族の方が 近くに来られた際立ち寄って下さる方もいられる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を直接聞いたり 日々の行動や表情を通して把握するよう努めている。居室へ訪室した際には 話し掛けを多く持つようにして 思いが表出できるよう努めている。	利用者一人ひとりとふれあう時間を持つことで思いを把握している。お風呂時や居室で1対1になった際、意識してゆっくり話を聞くことに努めている。家族からも良く話を聞き受容の気持ちで接することを大切にしている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの環境や暮らし方を 本人や家族 関係者から教えてもらい 継続していけるよう努めている。	本人・家族・その関係者から、本人のバックグラウンドに関する情報をもらい、全体像を知る取り組みをしている。利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、本人の出来る力、解る力を把握し、自分らしく暮らして行ける様支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを理解し 出来ること出来ないことを見極め 力を発揮できる場面をつくるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を聞き 現状に応じた介護計画を作るよう努めている。またその都度 カンファレンスを行っている。	毎月1回カンファレンス、3ヶ月/1回モニタリングを繰り返しながら、家族からの要望など臨機応変に取り入れ、介護計画を作成している。又、本人の心身状態の変化のみならず、本人主体の暮らしを反映した計画となる様、家族と共にカンファレンスし、その後見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全ての職員が確認できるよう 介護記録に日々の様子 本人の言葉など記録している。カンファレンス記録に介護計画の見直しや意見 改善など記録にしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課に捉われず その時々ニーズに対応している。(外出 外泊の時間 食事 入浴 病院受診の付き添い 必要物品の買い物) など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署 警察の協力を得る体制になっている。運営推進会議に地域包括支援センターの職員や町内会長が参加するようになり 周辺情報や支援に関する情報交換 協力関係を築いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。母体病院が隣接している事で 常に適切な医療をすぐに受けられる。	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、基本的に家族が受診同行している。母体病院が隣接しており、急な受診は職員が同行し受診している。日常の記録物を基に情報の共有は出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。また 看護師不在時は 母体病院の外来看護師が 窓口になり相談し 対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療を受けていただく為 職員が面会したり ケースワーカーより情報を入れてもらっている。入退時にサマリーなどで 医療関係者と情報交換や相談など行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応指針を定め 家族 医師 看護師を交えて話し合っている。状態変化に応じ 家族 本人の思いに注意を払い 支援に繋げている。	終末期に対する対応指針を定めており、家族・本人・医師・看護師・職員を交え早期の段階で話し合い、終末期に向けた治療方針を取り交わしている。重度化した場合は、すぐ医師の指示による対応が出来、納得した最後が迎えられる様に本人・家族の思いに添った支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は母体病院に 迅速に対応してもらえるよう 常に連携を図っている。職員全員が救急法マニュアルに沿った勉強会に参加し実践している。車での搬送の訓練も行っている。	常勤の看護師からアドバイスをもらい、初期対応や応急手当の訓練・シュミレーション等、実施している。事故事例検討しており、事例を基に夜間救急マニュアル等、随時見直しを行なっている。しかし、多くの職員が不安を感じている。	不安に思うことを主体とした訓練や勉強会を定期的に設け、知識や技術を身につけ、職員の不安を少しずつ取り除けるよう取り組むことを期待したい。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練(昼間 夜間各想定)実施。母体病院の応援体制で消防署立会いのもと 訓練を行っている。町内会長 民生委員 地域住民へも協力をお願いし 町内会長 民生委員には参加してもらっている。	災害時の協力依頼を町内会長と一緒に近隣の事業所等に配布している。また、リハビリの職員から車椅子を階段から下ろす方法など学んだり、避難訓練では消防署立会の下、地域の方にも参加してもらい昼夜想定で行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声の掛け方 さり気ない声の掛け方などし 人前で恥ずかしいおもいをしないように誘導を行い 対応し 配慮している。	利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に、目立たずさり気ない言葉で対応に配慮している。又その人の守るべき情報や記録物、外部との連携の際にも、守秘義務について十分理解し責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けし 意思表示困難な方は 表情や態度を読み取ったり 選択を提案して 利用者が自分で決められる環境や場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが 体調や気分に合わせて一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや希望に応じ 見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。美容院や理容院に本人の希望に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ 味み 配膳 後片づけ等は 利用者と共に 職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事ができるよう 雰囲気づくりも大切にしている。献立がいつでも分かるように ホワイトボードに記載している。	病院の栄養士が献立を作っている。ユニット内でいただき物やホームの畑で収穫した物を利用する事があり、メニューを変更している。職員と利用者が一緒にテーブルに付き、同じ食事をすることにより楽しい雰囲気作りは出来ている。準備からの一連の作業は利用者も一緒に行なっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による献立表に基づき 好みや旬の物を取り入れた 栄養バランスに配慮した食事を提供している。毎食後 食事量 水分量チェックし調整している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 歯磨きの声掛けを行い 必要な方には 見守り 介助を行っている。就寝時は義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し 声掛けや誘導を行っている。パット リハビリパンツも本人の状態に応じて使い分けている。排便確認を毎日行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の表情や行動から敏感に察知し、さり気なく支援している。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ 布パンツ等自立に向けた支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の献立に基づいた食事 水分補給 毎日の体操や散歩を心掛け 排便確認を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中のみであるが 本人の意に沿った時間に入浴していただいている。出来ることは見守り 介助が必要と思われるときは 支援するよう心掛けている。	利用者の生活習慣やその時々希望を大切にしている。入浴日は決まっているが朝風呂の好きな方・毎日入浴する方もおり、その方に合わせた入浴を支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し 生活リズムを整えるよ努めている。一人ひとりの体調や表情 希望等を考慮して ゆっくり休息がとれるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は きちんと服用出来ているか 一人ひとり確認している。処方の変更時は詳細な記録を取っている。薬事情報が看護介護記録に添付されており いつでも確認することが出来る。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野で 役割が持てるように出来そうなことを頼み 感謝の言葉を伝えて支援している。カルタ 折り紙 塗り絵 手芸 歌など一人ひとりにあった支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じてもらうため 日常的に散歩 買い物 ドライブ 外出に出掛けている。近くのスーパーに1回/2日食材の買い出しに出掛けている。	日常的に散歩・ドライブ・外食、又スーパーへの食材の買い出しからゴミ出しなど気分転換・ストレス解消を考え外へ出る様になっている。本人の状態や習慣・有する力・季節などの状況に応じて外出が楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理しているが、外出時外食や買い物等は自分で払っていただくようにお金を渡すなどの工夫をしている。希望にて自分で一部お金を持ち 電話を掛けたり ちょっとした買い物をしている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置してある。電話希望した時や手紙を書きたい時など 支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、ダイニングには花など飾り季節感を取り入れている。季節の行事に合わせた飾り付けをし 雰囲気を作っている。	リビングは、天井が高く晴れた日は暖かい日差しが入り、明るく気持ちを落ち着かせている。中庭やベランダは大きく広がり、時々茶話会などで楽しむ事もある。廊下のベンチやフロアなど、利用者は思い思いの場所で、語り合ったり楽しんでる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはベンチが置かれ 廊下にもベンチが配置され 休んで頂いたり利用者同志で雑談でき くつろげるスペースがある。和室もあり 冬には炬燵も設置され 利用者が思い思いに過ごせる居場所がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や写真などが置かれ その人らしい雰囲気となっている。	今迄の生活そのままを洋間・和室に使い慣れた家具や日用品を家族と一緒に並べ、落ち着いた楽しい雰囲気を作っている。写真を壁に貼ったり、花を飾ったり思い思いに、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置 必要な目印を付けたり、家具の配置等環境整備に努めている。本人の状態に合わせ 杖から歩行器に替えるなど、活動維持と転倒防止に努めている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					